

鹿児島県知事
塩田 康一 様

2023 年12月21日

馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会
代表 山内 光典

現在、種子島島内、特に西之表市においては、防衛省による馬毛島基地建設に係る工事関係の事業社、労働者、車両等が急増しており、島民生活に多大な影響を及ぼしています。一方で、防衛省は馬毛島工事予算を令和 5 年度補正予算として 2,684 億円も上乗せしていますが、その詳細説明を含む、工事に係る説明がほとんど行われておらず、住民の不安は募るばかりです。環境保全対策は、将来の漁場のためにも、SDGs の観点からも大変重要な位置づけですが、そのために鹿児島県の監視行動は不可欠です。なによりも、鹿児島県知事の、県民の安全対策を講じることが求められます。

一方、11月27日屋久島からわずか10km沖に米軍岩国基地所属のオスプレイが墜落し、いまだ行方不明者捜索が続いております。米国製オスプレイについてはこれまで世界各地で墜落事故が立たず危険性が指摘されていたにもかかわらず、日本政府はすでに 14 機を自衛隊に配備し、さらに米軍の低空飛行区域を国内法以下に下げる決定がすでになされています。何よりも飛行の全面停止を国に求めると同時に、日米地位協定の見直しを求めます。

そのために、以下の点を防衛省に正し地元の不安をいち早く払しょくしていただきたく、合わせて危険と隣り合わせの軍事施設で、米軍の恒久使用を求める馬毛島基地(仮称)の建設の中止を国に求めるよう、要請いたします。

記

鹿児島県知事は、国防策の前に県民の安全管理について最大の責務があります。基地建設工事から受け入れる地域住民の不安の回避及び安全確保を最大限に努めていただきたい。特に、馬毛島基地(仮称)においては真夜中 3 時までの米軍による FCLP が計画されており、11 月27)日に屋久島沖わずか10kmに墜落したオスプレイ機が象徴するように、米軍にかかる事故事件に対する国民の安全は担保されておられません。日米地位協定の直しの実現に努め、それが実現されまではこれ以上の馬毛島基地(仮称)整備を中止することを、強く防衛省に要望していただきたい。

以上

質問事項

■ マゲシカや自然環境の保全について

8月22日の馬毛島視察(漁船から)ではマゲシカ数頭しかを発見できていない。大規模工事が今年1月から本格着工しており、マゲシカの生息環境が大きく変化している。また、9月8日研究者らがマゲシカを「独自の移転的なグループ」であるとの分析結果を公表している。鹿児島県として以下の点を把握すべきである。

- ① 現在の生息環境について、伐採面積や自然環境の改変について
- ② 専門家によるマゲシカの生息調査の実施と情報開示を防衛省に求める
- ③ 防衛省からの説明は、8月の環境保全措置等状況について及び、西之表市との協議の場(第13回)で報告されているが、具体的ではなく、工事開始から1年を経なければ報告できないということについて、県の見解を問う

馬毛島のニホンジカの個体数調査については、比較的開けた場所での目視調査と樹林内に設置したセンサーカメラを用いた調査を行っている。センサーカメラを用いた個体数推定は、専門家の意見を踏まえ1年間の計測結果を分析するため、個体数調査の結果が判明するのは、早くても来年の春以降となる見込みである。いずれにせよ、分析結果が取りまとまった段階で、説明させていただく。(第13回協議の場 防衛省説明)

■ 葉山港浚渫工事及び東海岸の防波堤建設工事の状況について

① 鹿児島県は葉山漁港の浚渫工事に伴う許可を防衛省に出している。当初9か月の工事期間としていたが、その後の経過及び漁業権が設定されていることから漁業への影響についてどのように取り組んできたかの説明を求める。

② 巨大な防波堤建設に向けた工事計画にも関わらず、工事の進捗状況は立入禁止区域に指定され、外部からは把握できない。海底の、漁業権放棄した区域以外の海底への影響等、管理者としての県の状況把握について

■ 医療体制確保に向けて

馬毛島工事に関係する労働者を、防衛省は最大6,000人とみている。すでに約1,500人規模で島外からの労働者が増加しているとする。このため、島内最大医療機関である種子島医療センターでは、外来患者数が急増している。深刻な医療従事者不足が全国的に慢性化している中でも、さらに種子島では医療従事者不足が深刻であり、現在の馬毛島内での緊急医療体制では、さらに医療センターの業務負担を増加させるばかりである。抜本的な改善策、防衛省からの支援体制など、県としての支援策はないのか。

【医療体制】西之表市から「馬毛島内の救急体制について、現在、医務室が設置されているが、地域医療への影響を緩和するためにも、体制強化として診療所を開設することは検討されているのか。」旨発言し、防衛省から「当面の間は、巡回診療により対応することを考えているが、オンライン診療が可能になるよう種子島医療センター等と引き続き調整していく考えである。」旨回答し、西之表市から「市民の医療環境に影響がないよう、早急に対策をお願いする。」旨発言し、防衛省から「ご懸念を踏まえ、調整を進めてまいります。」旨回答(第13回協議の場)

■ 県民の安全管理について

- ① 政府は敵地攻撃や武器輸出の規制緩和等、国の防衛政策を大きく変えようとしている。このような中で、基地建設を受け入れる地域の住民の安全確保を、県知事としてどのように確保するのか。
- ② 沖縄県民の有事の際の避難計画が発表されつつあるが、鹿児島県内において種子島及び他の離島住民の避難計画について
- ③ 馬毛島基地(仮称)においては、真夜中 3 時までの人権無視の FCLP 訓練が予定されており、また日米地位協定が存在しているにも関わらず、「種子島上空は飛ばない」と防衛省の説明が繰り返されている。日米地位協定の抜本的な改革に向けてどのように取り組もうとしているのか。

■ 水産資源の確保と水産振興について

- ① 馬毛島は種子島近海で最も優れた漁場である。漁業権を放棄した区域を除く、現在漁業制限区域となっている海域での、漁場への影響についてどのような調査、もしくは現状把握が行われているのか
- ② 工事完了後に、防衛省は漁業を営むことができると説明されているが、県の認識を伺いたい。